

## 画家桐谷逸夫氏と歩く谷中探訪

読売新聞にエッセー「桐谷夫妻の一期一絵」を掲載している桐谷逸夫氏は、東京、とりわけ下町の姿を、愛情を持って描く画家として知られている。今回は、桐谷氏が東京の魅力のスポットを講義とまち歩きで紹介します。また、谷中のまちでは、外国人宿泊者が80%を超える旅館「澤の屋」を訪問し、観光カリスマである澤功さんのお話を伺います。

### ◆ 日時

2008年11月8日(土) 13時30分～17時

### ◆ 内容とスケジュール

① 13時30分～14時50分 桐谷逸夫氏講義

下町をはじめとする東京の様々な景観スポットを  
絵と写真で紹介します。

② 14時50分～15時20分、大手町から根津駅に移動

③ 15時20分～17時 谷中、街歩き

二つのグループに分かれて行動しますが、全員A・Bの両コース(各45分)を楽しみます。

Aコース 桐谷逸夫氏のご案内で谷中の街を歩きます。

Bコース 澤の屋旅館を訪問し、観光カリスマ、澤功さんのお話を伺います。



### ◆ 申し込み方法

受講料 3,200円

受付開始 10月9日(木) 定員 52名先着順 受付締切 11月3日(月)

日本文化体験交流塾ホームページ(<http://www.ijcee.com/>) からお申込ください。

問合せ先 ☎090-1607-5099 メールアドレス [info@ijcee.com](mailto:info@ijcee.com)

### ◆ 会場 ちよだプラットフォーム・クウェア 501・502 室

千代田区神田錦町3-21 電話 5259-8400、(交通)竹橋駅(東西線)3b KKR ホテル東京  
玄関前出口より徒歩2分、神保町駅(三田線・新宿線・半蔵門線)A9出口より徒歩7分、  
大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)C2出口より徒歩8分

→<http://yamori.jp/modules/tinyd2/index.php?id=10>

#### ◆桐谷逸夫氏の紹介

ボストン出身のエリザベスさん(NHK2 か国語のアナウンサー)と、1983年に結婚し、20数年前から台東区谷中に住み、下町暮らしを楽しんでいる。油絵やパステル画、アクリル画、リトグラフなどの手法で、「都市のダイナミズムや、そこに暮らす人々の息遣い」を表現し、絵画展などを開催している。

また、読売新聞都内版で毎週火曜日に「桐谷夫妻の一期一絵」を連載している。夫妻の共著として、「不便なことは素敵なこと」(マガジンハウス)「日米人情すごろく—絵と文で綴る逸夫とエリザベスの一期一会」

「下町いま・むかし—変わりゆく東京の人情と町並み」「東京いま・むかし—消えゆく町並みと人情」(以上、日貿出版社)「消えゆく日本—ワタシの見た下町の心と技」(丸善ブックス)などがある。



#### ◆澤功氏の紹介(国土交通省 HP の観光カリスマの紹介から要約)

「下町の外国人もてなしカリスマ」

銀行勤めをしていた澤功氏は、39年、澤の屋の一人娘と結婚し、澤の屋館主となる。修学旅行生の減少し、ビジネス・ホテルの増加などで、客室稼働率は54年の71%から56年には58%と減少し、赤字経営となった。

昭和47年、外国人を積極的に受け入れている旅館組織「ジャパニーズ・イン・グループ」に57年に加盟し、外国人旅行者を迎える方針に転換した。澤の屋は、施設・設備は和式のまま、例えば風呂は部屋風呂でなく共同風呂、トイレも和式であり、おまけに澤氏をはじめ従業員は外国語がわからず、様々な文化・習慣の外国人を受け入れたために当初は戸惑いや苦労があった。



外国人客を受け入れて以降、「夕食代が高い」とか苦情があったことから、夕食を出すことをやめた。その代わり近所の食堂で宿泊客が食事できるように、外国人客の受入と英文メニューの作成を依頼した。また、銀行、郵便局、病院、洗濯屋、寺社等を記入した谷中・根津周辺の英語の地図を作成し、宿泊客に配っている。そうした澤氏の努力もあり、下町気質が外国人客を町に受け入れる土壌としてあったため、日本情緒を味わいたい宿泊客は、花見、夏祭り、菊まつり、餅つき、豆まき等の町内の年中行事に参加することができ、谷中・根津界隈で草の根の国際交流が図られている。

平成14年には41か国からの外国人客、延べ5282人を受け入れた(日本人客1,290人、年平均部屋稼働率95.1%)。これまで延べ10万人もの外国人旅行者を受け入れている。